

自己評価結果公表シート

赤城育心こども園

1. 本園の基本理念、基本方針、保育の目標

基本理念
◎聖書に記された「自分のように隣人を愛しなさい（Love your neighbor as you love yourself）」という隣人愛に基いた保育を行う。
◎乳幼児の最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。（保育理念）
基本方針
◎おこころも からだも ちえも たいせつに みんな なかよく
保育の目標
◎自分が、神様に愛されている大切な存在であることを知る。
◎命の大切さを知り、人に対する思いやりの心、優しい心をもつ。
◎自分に対する自信と豊かな感性をもち、何事にも意欲的に取り組む。

2. R4年度の経営方針

○選ばれる園となるため、変化する社会ニーズをしなやかに受け止め、自園の保育を発信する
○子育て家庭を支える専門職としての覚悟をもち、各職員が自分の保育に責任をもつ

3. 総合的な評価結果

評価項目	取り組み状況
選ばれる園になるための保育の発信	まずは、HPに謳っている保育の実践を行うべく、職員全体会議をはじめとする各会議の中で、PDCAを通じた保育実践を行った。また、その内容を特にInstagramを中心とするSNSを媒体として社会に発信し、中には、数万の閲覧を得たものもあった。また、保護者向けには、各クラスのお便り等を積極的に発信し、取り組みに対する理解を図った。
職員の専門職としての覚悟と保育に対する責任	職員は正規、非正規に関係なく、子どもと保護者に対する各々の役割を考えながら行動した。保育者が何に悩んでいるかとは別の視点で子どもたちの困り感に焦点を当て、それを受容し、共感することについて職員間でたびたび協議し、その実践に努めた。

4. こども園の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

・コロナウイルス感染症の流行が落ち着きつつある中で、この数年、取り組むことができなかったことを少しずつ再開することができた。今後は、さらにダイナミックな展開も必要であると考えている。しかし、引き続き感染症のリスクと子どもたちの育ちのための積極的な保育については、冷静に判断をしていきたい。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
アフターコロナの保育実践	コロナを超えた新たな時代の保育実践を行う。
コロナで影響を受けた職員の関係性の再構築	制限せざるを得なかった職員会議や交流の機会を積極的に増やし、以前以上に中身の充実を図り、保育者の連携体制を強化する。
広い視野に立った幼児教育・保育の展開	自己啓発も含め職員の資質向上を図り、社会性をも考慮した保育実践へとつなげる。

6. 財務状況

市の指導監査により、適正に運営されていると認められている。